

応援ナビ！

～ 児童とのより良い関わりを目指して～



目次

第Ⅰ章 若手教員の悩みに答える危機管理編

ナビ1	児童本人に関すること	・・・	3
ナビ2	児童間のトラブル	・・・	5
ナビ3	保護者が関わること	・・・	7
ナビ4	教員自身に関わること	・・・	9
ナビ5	その他のこと	・・・	11

第Ⅱ章 若手教員の悩みに答える日常編

ナビ6	いじめのヒヤリ・ハット	・・・	13
ナビ7	気付きのタイミング	・・・	15
ナビ8	若手教員の悩み	・・・	17
ナビ9	日頃の取組	・・・	19
ナビ10	ほめ方・注意の仕方	・・・	21
ナビ11	指導のタイプ	・・・	23
ナビ12	時間の生み出し方	・・・	25
ナビ13	教室掲示	・・・	27
ナビ14	学級活動(2)の授業(低学年編)	・・・	29
ナビ15	学級活動(2)の授業(中学年編)	・・・	31
ナビ16	学級活動(2)の授業(高学年編)	・・・	33

第Ⅲ章 校内研修プログラム

ナビ17	組織対応 『校内研修プログラム』
------	---------------------

<調査に関わった教員>

若手・中堅・ベテラン教員に対して調査を行いました
()は「ぐんま教職員ステージアップシステム」が示すライフステージです

「若手教員」
(基礎形成期)

初任者・3年目研修



「中堅教員」
(資質充実・発展期)

10年・15年目研修



「ベテラン教員」
(資質円熟期)

市町村等で初任研を担当した
教員、H26長期研修員



本項の見方

本ハンドブックは、平成26年5月から7月にかけて、群馬の小学校に勤務する先生方にアンケートと聞き取り調査を行いました。その結果を基に、群馬の若手教員の悩みに応える形で、下図のようにできるだけ具体的な提案や実例を盛り込み、分かりやすい提案になることを目指して作成しました。

若手教員の悩みや課題

左ページの上半分に、悩みや課題を「問い」としてまとめました。若手教員に行った調査から、悩みが多かったものの中で、特に知ってほしい内容を取り上げました。また、質問内容に関連する、今回の調査結果も実態として掲載しました。

ナビ

悩みや課題に対しての解決提案を、できるだけ短いコメントで示しました。ベテラン教員への調査を参考にしました。

対応策

左ページの下半分に、解決や対応の提案を「答え」としてまとめました。



具体的な対応例

“危機管理編”の右ページは、調査から得た実際の事例をもとに、実践例を提示しました。



具体的な対応例

“日常編”の右ページは、実践を取り入れた、支援策を提案しました。中堅・ベテラン教員への調査から得た考え方やコツを取り入れました。

本ハンドブックで取り上げた「事例」は、調査で得た自由記述をもとに構成しています。なお、内容を損なわない程度に、部分的な変更や省略を行い、再構成しています。

また、ハンドブックの中で示している対応は参考例であり、実際は、児童や保護者の置かれている状況、学校や地域の実態等を考慮してご使用ください。



あやさん



けんいち君



りゅうじ君



ふみさん

ナビ1 児童本人に関すること



小さなトラブルに関して、

児童本人に関することで困っています

そんなこと覚えてない！

ぼくは悪くないから
謝らない！！

すぐに手が出てしまう

友達とうまく関われない

気持ちを表現するのが苦手

注意をしてくれているが
言い方が強い

同じトラブルを繰り返す

嘘をついてしまう
言い訳をしてしまう

人の物を勝手に使ってしまう



「嫌だったね」、まずは気持ちを受け止めること

からはじめましょう



ダメです。やっぱりうまくいきません

否定的な言葉を使っていますが、
表情が明るく、元気に話しています。



そうなのか。全然ダメな
のかな？うまくいって
いるところもあるのかな？

必ずしも
悪い状況
ではなさ
そうです



大丈夫です

肯定的な言葉を使っていますが、
表情が暗く、元気がありません。



そう。〇〇は
最近どう？

今の気持ちや
様子を詳しく聞
いていきます。



もう僕、りゅうちゃんと仲
直りしなくていいです

りゅうちゃんが気づいて
謝ってくれれば、仲直り
したいって、先生には聞
こえるよ



ほんとは・・・
そうだよ

言葉そのものでなく、「何を言おうとして
いるのか」という、そう語る「気持ち」を
受け止められるといいですね。

言葉で伝えることが得意で
ない子や、どうしても言いた
くない内容だから言わない
場合もあります。言葉で伝え
ることを指導する一方で、教
師自身が子どもの思いを悟
れるようになりたいですね。



調査にあったシナリオ
再現ドラマ

ホント、いつも同じことを繰り返す

謝れたのは偉かったね。

先生分かってくれたんだ

でも、すぐ嘘をつくのはやっぱりだめだね。もう嘘をつくのはやめようね。分かりましたか？

なんかな...
せっかく気をつけよう
と思ったのに...

もっているフレームとは違う枠組みで見ることで、“見方”や“意味づけ”を変えることをリフレーミングと言います。



いつも自慢ばかりして、
大嘘つきなダメな子

という枠で捉えず、肯定的な枠にリフレーミングするとしたら...

友達と楽しく話したい、話を聞いてもらいたいと思っている
そのためには、みんながびっくりするような話題がないとだめだと思っている
そのために、一生懸命になっている

参考

同じ「職員室に来てください」ということなのに、なぜ表情が変わるのでしょうか？

「いさん、昼休みに職員室に来てください。」

また怒られる
かもしれない

あのことで、
ほめられるの
かも

だって

私のことをいつも
怒る、大嫌いな先生
だから

私のことを理解し
てくれている、大好
きな先生だから

そういう枠(フレーム)で理解している

建設的なリフレーミングをすると、問題解決に役立つ見立てができそうです

ナビ2 児童間のトラブル

小さなトラブルに関して、
児童間のトラブルで困っています



頻繁に言い
つけに来る

物を壊した

高学年女子の
言い争い

先に悪口を
言われた

言っていない

いや、
言った

解決に時間がかかり、授業時間や
給食時間に食い込む

注意をするのは
よいが、その口
調が強すぎての
トラブル

過去からずっと続
いているトラブル

軽いふざけ合いから、
けんかに発展した

話を聞くうちに、被害者だと思われた
児童の方に原因があった



“言葉にできない思い”を”言葉にすること”を助ける
という気持ちで受け止めてみましょう



はいつもトラブルを起こすし、
はすぐ言いつけに来る...

無意識にラベリングしていないかな？

子どもの行動には、“意味・理由・背景”がある

そうか、は、友達がほしい
けれど、伝え方が分からなくて
わざといたずらをしていたのか。
じっくり話せてよかったな。

いたずらをしたことは謝ろうな。
「仲間に入れて」と言えばいいんだ
よ。先生と一緒に言ってみるか？

言えるか
なあ...

が「入れて」と言った
ら「いいよ」と応えるとい
いな。一緒に遊びたい
みたいだよ。

はい

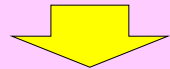
指導後は児童の様子をよく見て経過を
観察することが重要です！

資料



トラブルが最も起こる時間帯は
“休み時間”

(群馬の23万人アンケートより)



大人の目の届かないところで起こる

“居場所づくり”でいじめを減らす

誰もが巻き込まれるいじめのような場
合、一部の児童を想定した取組よりも
全員を対象とした取組が合理的かつ効
果的です。

(国立教育政策研究所 生徒指導リーフ8より)

調査にあったシナリオ
再現ドラマ

あ！！

授業が始まって10分も過ぎてる！

ルールを破って
ゴールしました！

破っていま
せん！！

そうだったような・・・

だから、よく分からないからもう一度話してみて。

キーンコーン

あ！

ゴールしました！

なんだっけ・・・

だから、よく分からないからもう一度話してみて。順番に話して。

参考

H26年度、総合教育センター
基幹研修受講者への調査より

17%

“対応に困った
トラブル”の17%
が、「双方の言い
分が違う」

71%

「双方の言い分
が違う」ことへの
対応で、授業に
食い込んだ事例
の割合は71%

気持ちは分かった。でも、二人の話は食い違って、この場ではすぐに解決できないね。

今、チャイムが鳴ったので、先生は授業をしたいと思うよ。

担任の思いを伝える

昼休みにもう一度しっかり話を聞くからその時に解決しよう。

約束をすることで、気持ちを切り替えられます。
(約束は必ず守ることが前提です)

両者にとって納得できる「win-winの解決」を目指せるといいですね

ナビ3 保護者が関わること

小さなトラブルに関して、

保護者にかかわることで困っています



悪口を言われたのに先生から指導がなかったようですが

うちの子は、そんな風には言っていないでしたよ

他の子の言うことは信じて、うちの子の話は信じないのですか

昨日けんかをしたようですが、先生はご存じですか？

あの子はいったいどういうお子さんなんですか

このくらい学校に持っていったっていいじゃないんですか

相手のおうちから、謝ってもらいたいです



自分の子どもの話しか信じない

保護者同士の関係に課題がある

児童間のトラブルについて、保護者の許容範囲が異なる



苦情と取るか、相談と取るか…が分かれ道

ですよ

連絡帳に文章を書いたり、学校に電話をかけたりすることは、保護者にとってはとてもエネルギーを使うことです。

困っているけれど、先生にどう伝えればよいのかしら…

力になってほしい。早く解決してほしい…焦る

学校で子どもが嫌な思いをしないかしら…

モンスターペアレントなんて言われたらどうしよう…



自分が保護者の立場だったらどう思うかな…？

子どもを思う気持ちは切実ですね。苦しい気持ちを抱えている保護者に安心感を与える誠意ある対応が必要になりそうです。

H20年にセンターで行った調査では、「児童や保護者の心情を受け止め、苦しい気持ちに配慮した対応を取る」ことができなかったり、「管理職を中心に多くの職員が対応していると感じられない」とき、不安や不満を感じ、学校に不信感をもつという結果が出ています。また、家庭訪問をしても、児童のことを心配している言葉が少ない、事実確認の調査結果が保護者の認識と異なっていることも不信につながるようです。



調査にあったシナリオ
再現ドラマ

1秒でも早い報告が、信頼を得るコツだった



…今、先生と話したことを、家の
人にちゃんと話しておくですよ。
いいですね。

…はい。



そして、一安心した先生は職員室で
事務処理を始めました。
一方、家では…

うちの子は注意されて
泣いているのに、なぜ
先生は電話一本よこさ
ないのかしら



夜、電話をかけて事情を説明した先生



こんな事があったので、
放課後、指導しました。

…うちの子の話と
違います！



先生は、君よりも先に事情を説明
できるとよかったですね。また、君の
行動について、**思いを理解して指導し**
たことを伝えるとよかったですね。



…今、話したことは、先生
からも家の人に伝えます。



君を帰した後、電話をかけて事情を説明した先生

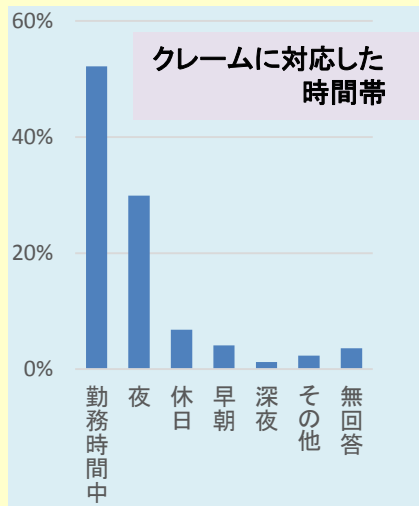


君が帰ったら、話すと思いますが、今日友達の絵を破い
てしまうことができました。君は友達を手伝うつもりだった
と話しています。いつもの様子からも、親切な気持ちだったの
だと思います。行き過ぎてしまった点については学校でよく話し
ましたので、家でも話を聞いてあげてください。ご不明なこと
があればお知らせください。



参考

総合教育センターで、H19年度
に実施した「保護者対応に関
する調査」の結果



初期にどう対応したかが肝心です

**ピンチはチャンス。保護者とは、「一緒に育てていきましょう」
という姿勢でいきましょう**

ナビ4 教員自身のこと



小さなトラブルに関して、

自分(教員)自身に関することで困っています

児童から「先生は、男子と女子で怒り方が違う」、と言われたけれど、図星なんだよな...

助けてほしいけれど、誰にどう言えばよいのかな

相談できる人がいない

子どもたちがやってるゲームやアニメ、よく知らないんだよな...。せっかく相談に来たのにちゃんと理解してあげられなくて悪かったなあ...

対応に時間がかかって、クラスが自習状態になってしまった

保護者に信頼されて
いない気がする

うまく伝えられない



聞くは一時の緊張？！

でも、聞いた人から解決のヒントがもらえますよ

若手の先生方は、こんなクッション言葉を使って先輩教員に相談してはどうでしょう

お忙しいところ、すみません。
ちょっとお時間よろしいですか？

〇〇について
教えていただけますか？



こんな言葉が飛び交う職場だといいいですね

今日の道徳で、ホワイトボード使ったら、どの子も小さい字で書いてしまって予想外だったわ。どう使えばいいのか教えて。

いつも笑顔でいいね

一緒に解決策を考えよう。

よかったら、空き時間に私の授業を見に来る？

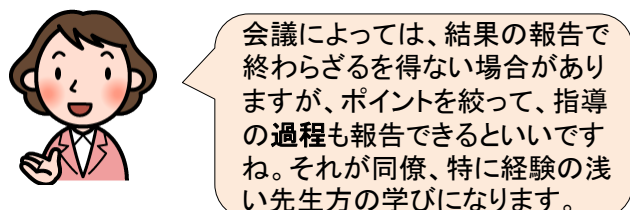
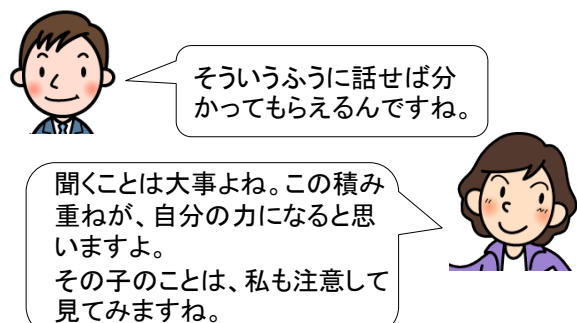
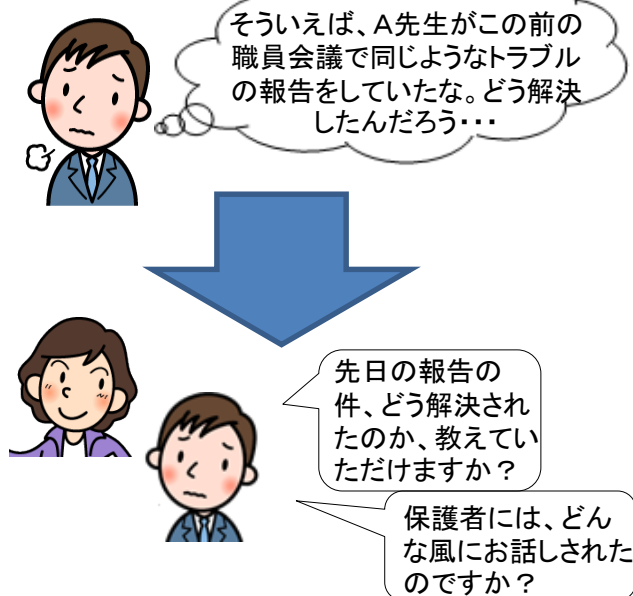


先輩に進んで質問したり、本を購入して読んだり、児童からも学ぼうとしたり、謙虚に学ぶ姿勢が大切です。



中堅・ベテランの先生方は、 相談されるのを待っています

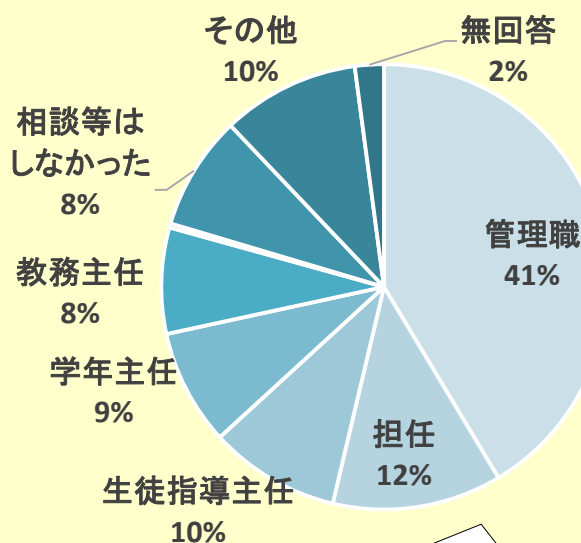
トラブル発生！！



資料

H19 群馬県の公立小学校の全学年主任・全初任者教員対象調査より

保護者のクレーム対応の時、誰かに相談等を行いましたか。相談等をした相手を全て選んでください。



今回の調査でも、保護者から学校や担任に連絡があった場合、たとえ小さな事でも、管理職には必ず報告するという回答が多かったです。全職員に伝えるという回答もありました。

ただ、忘れてはいけないのは、学年や、単学級の場合はブロックの担任に伝えるということです。一人で対応できなくなったり、自分の不在時に再び連絡が入ったりした時、“横のつながり”で情報を共有しておくことが必要だからです。そうした組織での対応が、学校への信頼を高める上でも大切です。

*上データは、群馬県総合教育センター『トラブル防止マニュアル』P56の、小学校部分を参考にしました。

あるお医者さんの話では、多忙だけで倒れる人は多くはなく、多忙に孤独が加わったときに倒れるケースが多いのだそうです。悩みを一人で抱えることはありませんか？

学級の様子を、気軽に話せる関係にしたいですね

ナビ5 その他のこと



小さなトラブルに関して、
目の前のトラブルと直接関係ないことで困っています

前年度から続いている
児童間の関係が
原因のトラブル



先生、〇ちゃんが
△と言ってました。

直接関係のない児
童の話で、事実が
見えなくなった



他学年が関わるトラブル
のため、複数の教員で
対応したが、自分はど
ういう立ち位置でいれ
ばよかったのか分らない



よいと思って行っ
たことが、誤解され
てしまった



「なぜうまくいかないのか」より

「どうすればうまくいくか」に目を向けるといいですね

勇気の出ないりゅうじ君



授業中は黙ってしま
います。少人数でも発
言できません。



なぜ話せないんだろう？
何がいけなかったんだろう？
クラスの何が問題なんだろう？
友達関係かな？
小さいときから話せないのかな？
家ではどうなんだろう？
親のしつけが厳しすぎる
とかかな？
授業形態が悪いのかな？

はあ、嫌になるなあ・・・



2人でゆっくり話そう

りゅうじ君は、どうなったらいい
な、と思っているんだい？

そうか、自分の意見に
自信をもってから、発言できたらいいなと思っ
ているだね。お隣さんと相談した後なら、発言
できるかもしれないね。やってみるか？

方向性がちょっと見えてきたかな

メンタルな問題の場合、原因を絞るのは難しいですね。近藤先生のように
解決像に目を向けると、最初の一步が見つかりそうですね。



調査にあったシナリオ
再現ドラマ

ひいきのつもりはなかったけれど・・・



分かりました。昼休みにやっておきます。



ふみさんは本当にしっかりしているな。仕事も早いから助かるし。そうだ、ボランティアの方へのお礼の手紙も、時間がないから文さんに書いてもらおう。



なんか、いつもふみちゃんばかりでずるいと思わない？

そうだよな。ぼくだって代表になりたかったよ



なんだかみんなの様子がおかしいな・・・



子どもたちは“ひいき”にとっても敏感です。気をつけていても、誤解されかねないこともあります。先生の思いつきで、頼むのではなく、急いでいるならば、自分で行うようにしたいですね。

また、気になる子との関わりをもつためといった意図がある場合も、頼まれる子の状況をよく考える必要がありますね。



参考

調査から、“児童との関係を悪くしてしまったと思われる言葉”が聞かれました。



① 「でもね」

子どもに注意する時は、よいところをほめてから、と考えていました。先日、自分がミスをしたときに、同僚から「ここはいいと思うよ。でもね、ここが・・・」と言われたとき、すごく嫌な気持ちになりました。ほめられたこともうれしくなくなり、「ほめた後の“でもね”」を言わないようになりました。

② 「後でね」

他の子と話しているときに割り込まれたときに、「後で聞かからね」と軽く言ってしまいました。でも、すっかり忘れていました。たぶん、その子は約束を反故にされと思ったでしょう。「後で」と言ったときは、確実に「後で聞く機会」を作るべきだと反省しました。

左の再現ドラマは児童に対するものですが、調査では、保護者がひいきを感じたという事例もありました。

それは



トラブルがあったときに被害を受けた児童の保護者には連絡をしたが、加害者の立場になった児童の保護者には連絡しなかったために、後日、保護者同士の意見の対立が見られた、というものでした。

指導の経過を、両者に伝える必要があった事例です。

加害者の立場になった児童の保護者にも配慮して、徐々にかわれるようになるといいですね。



うまくいったら続け、うまくいかなかったら別の方法を考えてみましょう



いじめや問題行動につながる可能性のあることには どんなことが考えられますか？

私は小さな出来事を見逃してしまっていたのかな？

児童のどんな態度や行動に気を付け
ればいいのか知りたいな

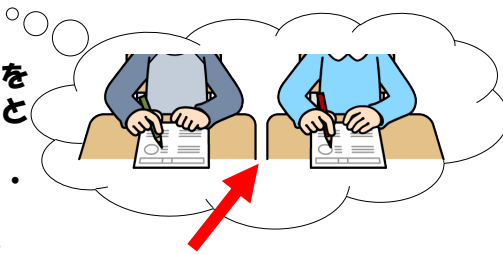


小さな現象を見逃してはいませんか？

“いじめや問題行動のヒヤリ・ハット”について考えてみましょう

こんな場面を考えてみましょう

隣の人とは机をくっつけることになっているクラスで・・・



ここ！！この数センチがヒヤリ・ハットです

考えられる指導

- ① 2人の関係がよく分かっていて、周囲にも注意を喚起する必要がある場合



机をつけなさい！

または、無言で教師が机をつけることで、いけないことに気付かせる。

- ② 年度初めなど2人の関係がよく分からない場合
たまたま離れているのか、様子を見たい場合



1日観察して、放課後まで離れていた場合、個別に話を聞くといいですね。

さっき、気になったのだけど・・・

- ③ 一方の児童が机を付けようとしているのに、
他方の児童が机を離すような場合



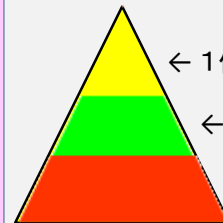
いじめに近い状況にあるのかもしれませんが、①のようにその場で強制することが逆効果の場合も考えられます。

机が離れている気がしたのだけど、隣のA君とのことで困っていることはない？

資料

ヒヤリ・ハットとは・・・

“ハインリッヒの法則”



← 1件の重大な事故

← 29件の軽微な事故

← 300件のヒヤリ・ハット

労働災害の分野で、“ハインリッヒの法則”というのがあります。1つの重大な事故の背後には29の軽微な事故や災害があり、その背後には300のニアミス(ヒヤリ・ハット)があるというものです。重大な事故に直結しても不思議でないミスに、ヒヤリとしたりハッとしたりするものです。問題にはならないので、「ああよかった」と見過ごされがちです。

ヒヤリ・ハットの事例を集めることが事故の防止になるそうです。



教室でのヒヤリ・ハットの事例を探することで、いじめを含む問題行動の未然防止になりそうです。

机のことでも対応例はたくさん考えられます。
次は、ヒヤリハット場面と一緒に考えてみましょう。



学級で考えられる、いじめを含む問題行動につながりそうな「ヒヤリ・ハット」を見つけてみましょう

授業中や授業の前後の時間



ノート等を配る場面で

- ・特定の子に、投げて渡している
- ・特定の子だけ、自分では配らず、他の人に配らせている
- ・受け取る側が嫌な顔をしている

特定の子が指名されたり発言したりすると

- ・ニヤッとしている
- ・複数で目配せをしている
- ・鼻で笑う
- ・間違いをからかう

グループでの活動で

- ・同じ子に発表を押しつけている
- ・特定の子が居づらくするような雰囲気を作っている

- ・いつも同じ子が授業準備をしている
- ・いつも同じ子が片付けをしている
- ・準備運動を同じ子がさせられている
- ・全員がそろっていないのに、準備運動を始めている
- ・いつも消しゴム等を貸している

- ・机を離している
- ・机が接するところに、壁のように本を積んだり筆箱を置いたりしている

- ・ペアになるとき嫌な表情をしている
- ・係を決めるとき、特定の子がなった係を避けている

清掃の時



- ・きれいな道具を使う子がいつも決まっている
- ・いつも同じ子がほうきをするなど、仕事内容に偏りがある

- ・机を運ぶ際、たくさん運ぶ子と、少ししか運ばない子がいる
- ・机を運ぶ際、特定の子のいすだけ下ろさない

給食の時



- ・盛りつけの量を、人によって変えている
- ・盛りつけてもらう時に、嫌な顔をしている
- ・配膳係が、特定の児童だけ配らない

- ・机を離して食べている
- ・特定の子とだけ会話をしない
- ・おかわりに不公平感がある

その他

遊ぶときに

- ・特定の友達に気遣いをしている
- ・いつも嫌な役をやらされている
- ・後片付けをさせられている
- ・からかわれている
- ・誘われるまま元気なくついて行く

- ・すれ違いざまに、ゴミを払うような仕草をしている
- ・メモのような軽い落書きがある
- ・鼻をつまむなど、服装等を軽蔑する行為が見られる

- ・複数でトイレに行く
- ・複数でトイレの個室に入る
- ・職員室や保健室に頻繁に行く

- ・早退時など、みんなが「お大事に」等と言っても言わないでいる
- ・友達からの言葉がけが少ない
- ・なかなか下校したがらない又は慌てて下校する
- ・特定の子だけよく注意されている

この他の「ヒヤリ・ハット」も探してみませんか？

理由を尋ねると児童によっては「気付きませんでした」「僕じゃありません」「これは遊びです」などと返してくることがあります。この場合、個別対応で、自分の行動で相手がどんな気持ちになったかなど、考えさせる必要が出てきます。いずれにしても、帰りの挨拶の時、児童の表情を素早く観察し、全員を明るい表情で帰すことが大切です。気になる子にはひと声かけてはどうでしょう。





ナビ7 気付きのタイミング

忙しいこともあって、
タイミングよく声をかけられないのが悩みです

気にはなっていたのですが、そのときは忙しくて、ついそのままにしまいました

いつもと違うな、というのは感じていたのですが、声をかけそびれてしまって...

進んで話しかけてくる子とはよく話しますが、1日終えて振り返ってみると、あまり話さなかったな、という子がいいます

後から考えると、あのとき声をかけた方がよかったな、と思います



クラスで、教師が「困ったな」と感じる児童は、
実は「困っている子」です

**「ねぎらう言葉」で
きっかけ作りができます**

自分の苦勞にねぎらってくれる言葉は、また頑張ろうという気持ちにさせる力があります

雪の中、よく来ましたね。寒かったですよね

体調が悪いのに最後まで仕上げたんだね

**相手が気付いて
ほしいことを言葉にして
伝えるのもいいですね**

関心をもっていることが伝わります

髪の毛を切ったんだね

ピンク色が好きなの？

今、どうしても声をかけられないときは、記録を。

“次に同じ様なことがあったら、そのとき言葉をかけよう”や、“このくらい言わなくても分かっているだろう”などと思わず、声をかけることを忘れないように付箋などにメモをして、できるだけ早く伝えられるといいですね。



学校では、管理職や同僚だけでなく、技術員さんやスクールカウンセラー、ボランティアの方など、様々な人がクラスの児童に関わってくれます。こうした斜めの関係にある人の言葉が児童に勇気を与えることもありますね。たくさんの人の言葉や力も借りながら、児童と向き合っていきましょう。



中堅・ベテランの先生方は、児童の変化に気づくどんな工夫をしているのか見てみましょう

クラスで、教師が「困ったな」と感じる児童は、「困っている子」です。例えば、その子のよいところを伝えたり、意識して関わりをもつようにしてはどうでしょう。「～はどう？」や「それいいね！」など、声をかけることで、自分に関心を寄せてくれた安心感で信頼が深まるでしょう。



気づきのタイミング例

朝の健康観察で、担任が一人一人の名前を呼んでいます。体調の変化など、小さいことにも気づけます。

休み時間の様子を気にかけてるようにしています。一緒に外へ出られなくても、窓から外の様子を見たりします。

給食時に毎日違う班に入り、子どもたちに話しかけています。家のことや友達のことなど、その子の「今」の姿が見えます。

気になる児童に仕事を頼み、話をする機会を作っています。一緒に過ごす中で、新たな気づきがあることもあります。

年度の前半と後半に1人ずつ面談をしています。特に高学年になると、心配なことがあっても、なかなか担任に打ち明けてきません。また、周囲の目を気にするため、気になる児童がいても、簡単に声をかけにくい時もありますね。そこで、休み時間に児童と2人で話せる状況を作ります。

“ながら相談”を活用しています。気になる子は、“歩きながら”や“一輪車で遊びながら”など、何かをしながらさりげなく声をかけます。

児童が自分で希望の時間に記名します。

チャンス相談	
① 6/16(月) 20分 →	⑦ 7/3(木) 20分 →
② 昼 →	⑧ 昼 →
③ 6/17(火) 20分 →	⑨ 7/4(金) 昼 →
④ 昼 →	⑩ 7/7(月) 20分 →
⑤ 6/18(水) 20分 →	⑪ 7/8(火) 20分 →
⑥ 6/19(木) 昼 →	⑫ 昼 →



そうだったのね。困っていることのおおよそは分かりました。よく話してくれたね。続きを放課後に聞かせてくれる？



児童の思いや変化に「気づく」力を高めていきたいですね。



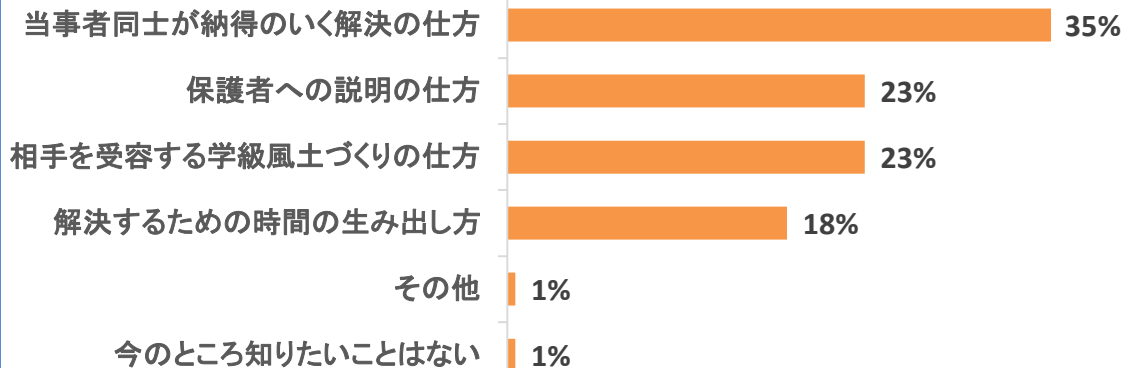
ナビ8 若手教員の悩み

小さなトラブルへの対応等に関して、
若手の先生は、どんなことで悩んでいますか？

H26年6月 若手教員対象に実施

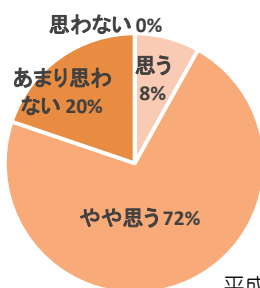
トラブルへの対応で悩んでいること

(複数回答可)



悩むのは、子どもたちと
よりよい関わりをしていきたいと思っているから

あなたは保護者との対応が
うまくできていると思いますか？

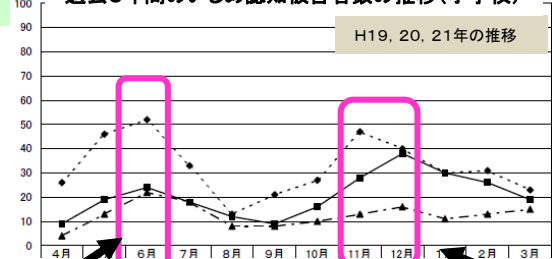


平成19年度
初任者対象

初任者が悩んだ時期(6月、11月、12月)と、生徒指導上の問題件数が増える時期が重なっていることが分かります。

こうした、この時期の特徴を理解すると、児童との関わりを、いつも以上に意識していこうという気持ちになりませんか？

過去3年間のいじめ認知被害者数の推移(小学校)



「生徒指導上の諸問題調査結果報告書」

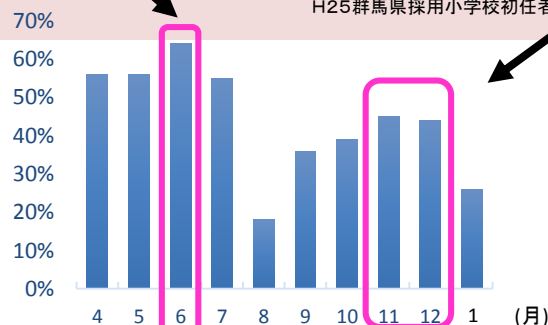
群馬県教育委員会 H22

6月

11・12月

「教師になって悩んだ時期」

H25群馬県採用小学校初任者



群馬県総合教育センター H25

よりよい児童との関わりを、キャッチボールにたとえて考えてみましょう



子どもたちは、いろいろな思いを教師に投げかけてきます



うれしい

先生、100点取れて最高の気分！



友達とけんかしちゃった
どうしよう、先生…

悲しい・不安

先生、こんなことが
あったんだよ
聞いてよ！



悔しい

その“思い”をボールにして



力いっぱい
投げる



隠れて投げる

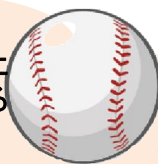


上手に
投げられない



投げられない

わざと違う方向に
投げる



いろいろな投げ方で
届けようと思います



具体的にはどんな姿が
考えられるかな？

ニコニコして
うれしそう

進んで友達を
手伝う

いつもより
積極的に挙手する

服や髪型が
いつもと違う

欠席が続く
泣き出しそう

トイレや保健室に
行く回数が増える

こそこそする
悪口・けんか

落書きをする
忘れ物が増える

「めんどくさい」など、
投げやりな言葉が増える

イライラして
友達を避ける

用事がないのに
教師のそばにいる

休み時間に1人でいる
元気がない



さあ、
こうした姿が見られた時、どんな言葉を返したら、キャッチボールが続くでしょう？

17ページの疑問については、
左の対応ページも参考にしてくだい

児童同士のトラブル…
保護者への対応……
学級のこと……………
時間の生み出し方……

5ページの「ナビ2」
7ページの「ナビ3」
23ページの「ナビ11」
25ページの「ナビ12」

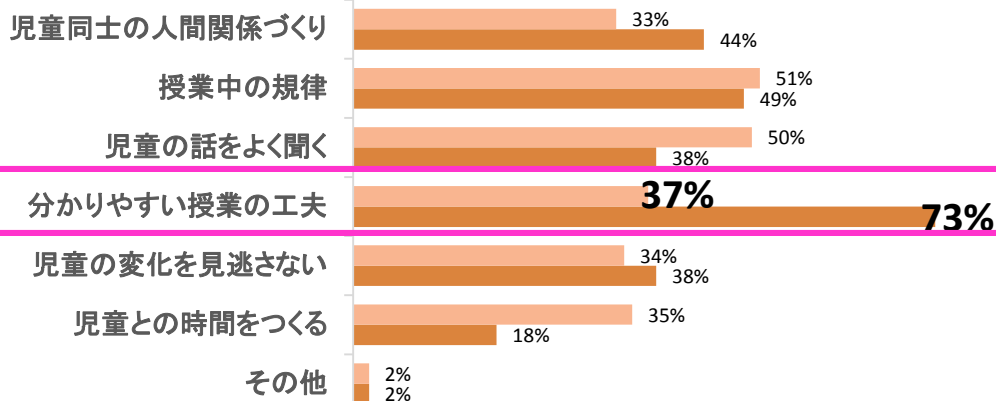


ナビ9 日ごろの取組

児童にとって居心地のよい学級にするために、
先生方は**日頃どんなことに取り組んでいる**のですか？

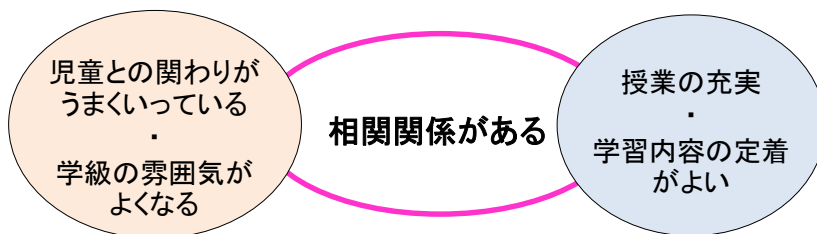
日頃取り組んでいること（3つ選択）

■若手教員 ■中堅教員



授業中は、
児童との充実した関わりができるチャンス！

授業の基盤は学級経営にあります



H26年度の「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙で、学力と相関関係が見られた項目

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」

「きまり・約束を守っていますか」

「人の気持ちが分かる人間になりたいですか」

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

肯定的に回答している児童・生徒は全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られました。
分かりやすい授業の工夫が居心地のよい学級づくりにつながります。

生徒指導の3つの機能について考えてみましょう

授業は学校生活の基本であり、一番長く児童と向き合える時間ですね。分かる授業で児童との信頼関係が築けますし、信頼関係を基盤に、より授業が深まることもあります。すべての児童が活躍できる授業を工夫する上でも、生徒指導の3つの機能を見てみましょう。

例えば・・・

押しつけられたり、やらされたりでは、大人でもやる気が出ないな

児童が「自分が選んだ」という気持ちをもてるといいですね。迷っている児童には、選択肢を与えられるといいですね。

迷っているなら、得意を生かして、100m走や1000m走など、走る種目で選んだら？

毎日10分なわとびを練習する目標を立てたんだね。大会でよい記録が出るといいね。

学級代表になると、委員長は兼任できないから、よく考えてね。

自己決定

「6年生を送る会」で、劇をすることになりました

私は大きい声が出せるから何か役をやりたいな

私は脚本を書いてみたいなあ

“認め合い・学び合い”が実感できる関わりを取り入れてみましょう

教員同士でも学びが深まりますね

分担すればできるかも

うなずき 拍手

困っているなら、話を聞かよ

いいね！

ありがとうございます

ごめんね

おはよう

みんなで考えるからよいアイデアが出るのね

その考えいいね！

共感的人間関係

ふみちゃんは文章を書くのが上手だな。こんな物語が書けるなんて、本当にすごいな。

あやちゃんの声、体育館の後ろまでよく聞こえるよ！とってもいいよ！

“自分のことを受け止めてもらえた”と実感できる関わりを取り入れてみましょう

はい、ふみさん

はい、次の人

A君の腕相撲の強さには、誰もかなわないね

ふみさんの意見は、前回の結果を入れたところがいいですね

先生からの言葉でやる気が出たよ！！

どの児童も答えられるように発問を工夫します

間違いからも、学ぶことができたね

自己存在感

そして劇は大成功！

35人全員で劇ができて本当にうれしいな。

1組でよかったよね。クラス替えをしてもみんな仲良しでいいよね



高学年だと認めるのが難しく、低学年だと注意することが難しい気がします
いずれにしても、**言葉が児童に届いていない気がします**



その言葉で児童の行動が変わるかどうか、考えてみましょう
自分がスッキリするための言葉になっていませんか

具体的な表現が○

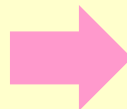


ひろし君らしくて、
いいですね。

ぼくらしいって？
どこが？

何度言ったら分
かるのですか！

3回？10回かな・・・？



廊下は、ゆっくり、
歩きましょう。

肯定的な表現が
いいですね！
「○しない！」
→「○しようね」

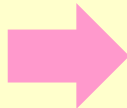
ひろし君が提案したこと
でみんなが気づけたね。

台形の上半分を返して平行四辺形にしたんだ
ね。点対称の考えを使ったところがいいね。

受容的な表現が○



殴っちゃダメ
じゃないか！
最低だぞ。



何がいけないのか、行動を指摘
できるといいですね！

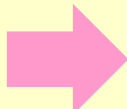
殴りなくなった気持ちは分かるよ。
とても悔しかったんだね。
それでも、殴ったことはいけないよ。

共感をすることで、一方的に注意する
形でなくなります。

伝わる環境を整えることが○



どうしてまた忘れ
たんだ。いつも忘
れ物ばかりだ
ね。下敷きもない
じゃないか。あ
れ？消しゴムも
入っていない・・・



今、一番伝えたいことは何か、優先順位の
高いものを1つに絞った方が効果的です。

たまたま忘れたんだね。では、
どのやり方なら明日は忘れず
に持ってこれると思う？

よくないことには、「たまたま」という
言葉を使うと、本当はできるという気
持が伝わります。

どんな場面があるか考えてみましょう

認めるのはどんな場面があるかな

できたり、
できなかったりすること

少しだけでもできたら、
スモールステップで

少しできたこと

二重跳び、この前より
1回多く跳べたんだ！
まだ、たった3回だけ
ど、自己新記録だ！



できていること

3年生なら、できて
当たり前だと思っ
てたけど、先生に
ほめてもらったか
ら、また、頑張ろ
う。



そうすると、～できるね

～したのは、とても
いいことだね



すごいじゃないか！

立派だぞ！

握手をする

頭をなでる

注意するのはどんな場面があるかな

“自分”を
振り返りやすい
言葉

見ていた人は、
こんな風に言っ
てくれたよ

本当はこうしよう
思っていたんだね

どうしたら
よかったのかな？

どうしたの？
どんな
気持ち
だったの？

トラブルを起こさせないことが
大事なのではないですね。友達と
トラブルになったときに、自分が悪かった
ところを認めて謝ったり、友達を許して
あげたりすることを教え、トラブルを
どう仲直りすればよいかを考える
“チャンス”に変えてあげられると
いいですね。

テレビなどで、親が子を頭ごなしに叱るような場面を
見かけることがあります。心理学では“怒り”などは二次感情と
いわれ、その裏にある「心配している」や「がっかりした」などに
続いて湧いてくる感情です。
そこで、児童を前にカッとなってしまうような時などは
「先生は残念だよ」「不安に思っているよ」というように、
その前にある自分の本当の気持ちを伝えた方が
解決が早いことがありますよ。



いけないことをしてしまったと、
反省の様子が見えた場合は、
「昨日までは気持ちを言葉で言おうと
努力していたのに、今日はどうしたの？」
といった具合に、振り返ることが
できる“間”を残してから指導
することも大切です。



問題になってから注意
するよりも、有効だな

諭すように叱ることが有効なとき
もあれば、絶対にいけないことを
伝えるために本気で叱らなければ
ならないこともありますね・・・

取材から、“先生が本気で叱る場面”を、
あらかじめ児童に伝えているという先生が複数いました

先生が本気で叱る3つの場面(例)

- ・命にかかわる危険なことを
したとき
- ・友達や自分の心を傷つけたとき
- ・約束を破ったとき

年度初めに伝える
と、クラスのルール
になり、しかも、先生
が叱る場面が明確
なので児童は安心し
て生活できますね。

注意した後は様子をよく見て、よいところは認めるなど
し、行動が前向きになるようにしましょう



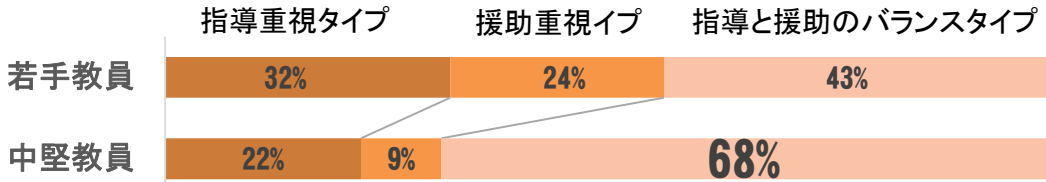


ナビ11 指導のタイプ

クラスの子どもたちの口調がきついです。
自分の言い方がきついのかな、と悩みます

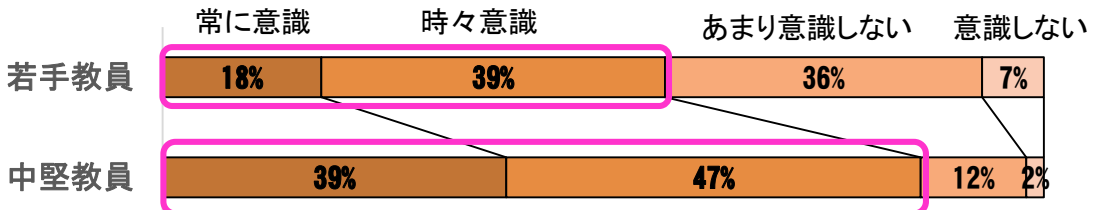
自分の指導のタイプ

H26年5月～6月
若手・中堅教員対象に実施



指導のタイプを意識しているか

H26年5月～6月
若手・中堅教員対象に実施



児童は教師の日々の言動をよく見ています
“学級の状況”と“教師の指導”をうまく組み合わせられるといいですね

指導の側面：P機能（Performance パフォーマンス）

行動の例

指示が明確で
具体的

授業のルールを決
めている

目標達成や課題
遂行の機能

プリントを2枚解き
ます。15分までに
提出するように。

発表している人の方を
向いていますか。

大会優勝という目標
に向けて縄跳びを毎
日行います。



援助の側面：M機能（Maintenance メンテナンス）

行動の例

明るい雰囲気
一緒に遊ぶ

緊張を和らげたり意欲
を喚起したりする言葉
かけがある

発言や問題を全体
で共有しようとする
公平で配慮がある

○君の意見、みんな
はどう考えますか？

○君が言いたいこと
は、～ということですね

あとちょっとだね。頑
張ってね。



状況に応じて力を発揮することで、指導力となる

教師のリーダーシップの取り方が学級の状態に影響を与えることがあります。状況に応じた関わり方について見てみましょう

「指導と援助のバランスタイプ」の学級には「ルール」と「リレーション」が確立しています。

河村(2013)

ルールとは

“学級目標”や“よい子のきまり”といったものではなく、学級の子どもたちの共通の行動規範・行動様式。個人が自らルールに沿って行動できるようになっているのが「学級にルールが確立している状態」

「きまり」とクラスの
“ルール”が一致し
ているから安心



先生がいなくても、
チャイム着席している



先生が来れば、
席に着く

リレーションとは

互いに構えない、ふれ合いのある本音の感情交流がある状態。仲間意識が生まれ、授業や行事が協力的で活発になる。一人一人の学習意欲も高まる。



あまり遊ぶことがなかったけれど、発表会
では、一緒にがんばりたいな！



自他共に認める
「指導重視タイプ」
近藤先生

相手を思いやることのできる学級にしたいと思っています。

でも、学級に援助の側面(M機能)が弱いと考えた近藤先生は、
M機能を意識して対応することにしました。

自分が児童のお手本
(ロールモデル)にな
るように、少し意識し
てみよう

〇君は、間違えた
けど、「ここにな
い」って教えてくれ
たから、私たちのグ
ループは早く見つ
けられたんだよ。
ありがと。



その発言、とても
いいね。こういう
言葉がクラスに
増えるとうれしい
ね。

どうしてそんなこと
になったのか、3人の話
を聞いた後、みんな
で一緒に考えよう。



そっか、友達
のよいところは
口に出すとい
いんだな。



先生の
ほめ方、
いいな。

そのときの学級の状態に合った
関わり方を考え、実践すると、
児童は教師の姿から学びます。

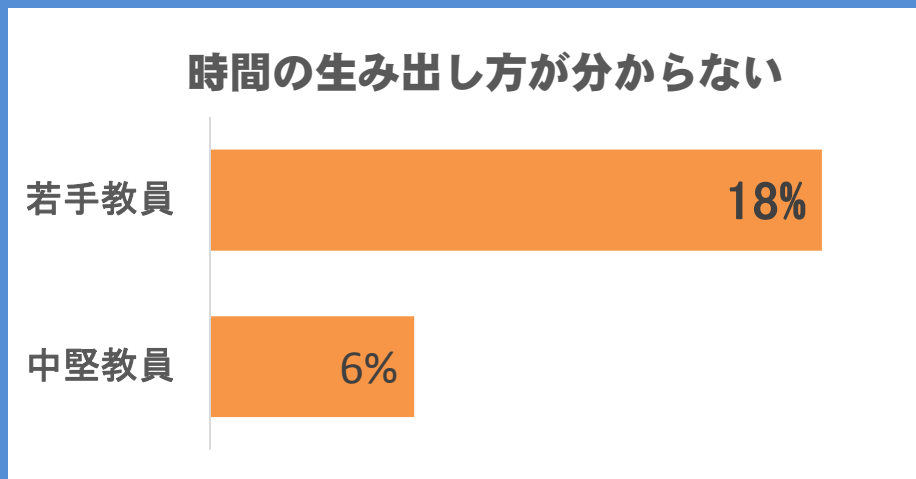
“日常の観察”は必ず必要ですが、アンケートや質問紙も併用することで、
学級の状態を客観的に把握することができます。





ナビ12 時間の生み出し方

児童が学校にいる時間帯で、**児童と関わる時間をどう生み出せばよいのか悩んでいます**



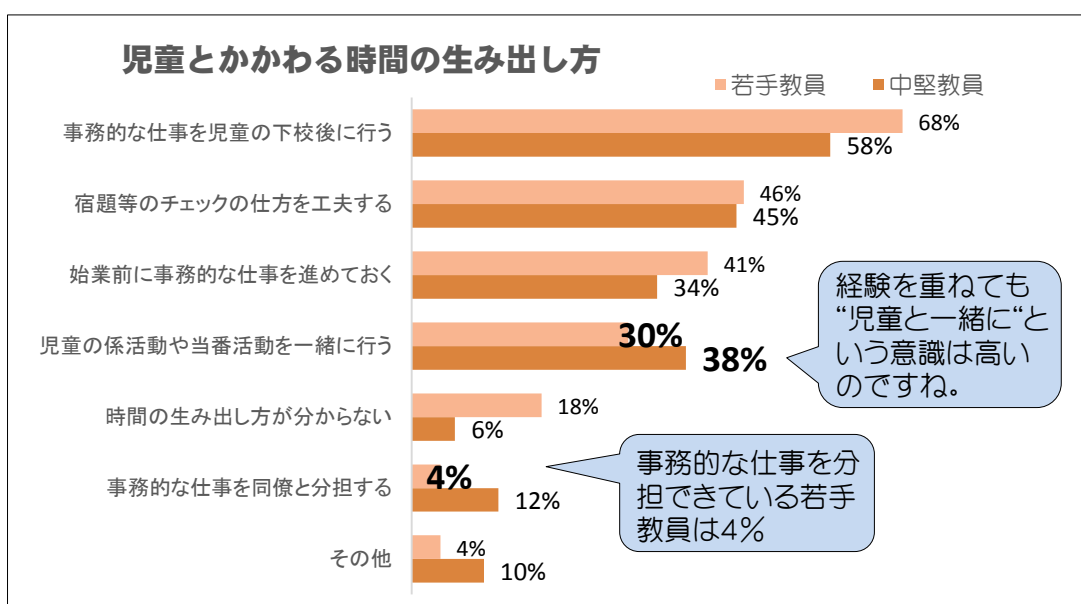
学年内でやるべき事を分担したり、フォルダ等に整理し、学校全体で共有したりできるといいですね。

予備調査¹⁾で、「児童が学校にいる時間で、トラブルを解決する時間が十分あると思うか」について質問しました。

H26.4月長期研修員へのアンケート調査



児童一人一人と向き合う時間が十分取れないというは、他の聞き取り調査でも、明らかでした。



では、中堅・ベテランの先生方への調査から、児童とかかわる時間の生み出し方の工夫を見ていきましょう。



中堅・ベテランの先生方は、どのようにして児童とかかわる時間を生み出しているのか見てみましょう。

- ・朝はなるべく早く教室に行き、一人一人名前を呼んで挨拶する
- ・始業前や休み時間に話をする。

朝早く出勤し、児童が登校したらすぐに宿題や連絡帳を提出させ、素早くチェックを終える。

- ・休み時間は、半分は必ず一緒に外で遊ぶと決めて実践している。
- ・休み時間に事務仕事はしない、と決めている。

- ・給食と一緒に食べる。
- ・係や当番を活用する。



何よりも、授業中が最も充実した関わりができる機会だと思いますよ。

児童が下校後でよいもの、家庭でできるものと、分けて考えると今やるべき事が見えてくる。

支援員や管理職を含む担任外と連携・協力する。

授業中頑張っていることを、一人1回以上ほめる

宿題にコメントする、給食の班に入る等、1日一人一言を工夫して取り入れる場を設定し、年間貫く。

教材研究や授業準備は、前日までに終わらせる。心にゆとりをもって下校まで見届けられます。

「何かあったときに対応できる」隙間時間を1日のどこで確保できるかを、朝の段階で、予測しておく。



児童との関わりを深めるために、日記帳を活用しているという意見がありました。記述の中から何らかのサインを見つけられる場合があり、児童理解にも役立つことがあるようです。

ただ、プライバシーに配慮した提出のさせ方や、保護者との信頼関係を失わないよう、返事の内容に気をつけるなどの工夫すべき点はありそうです。また、返事を書く時間の確保も課題としてはあるようです。



上の写真は、宿題係が短時間で提出をチェックする際に使っている名前磁石です。(貼っぱなしにはしません)ノートを開いて提出させたいチェック済みを入れるかご(下の写真)を決めたいするのも「時短」になります。



時間を生み出すコツの結論は、優先順位をつけることのようにです。学校生活における優先順位を、全て“児童”にするのは難しいかもしれませんが、児童が学校にいる時間は児童がメインであり、そのための私たちであることを忘れずにいたいですね。『子ども達のために10分を生み出す方法をいつも考えている』という回答もありました。





一人一人を大事にしていることが教室掲示からも伝わるようにしたいと思います。アイデアがありますか？



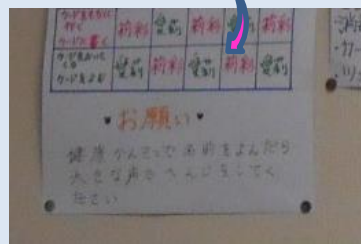
互いのよさを認め合える掲示ができるといいです。掲示物ひとつからでも、自己存在感を感じられる児童がいます

掲示物でつくる児童の“居場所”



担任と児童が
一緒に作っていく
学級活動コーナー

児童の活動が見える掲示物

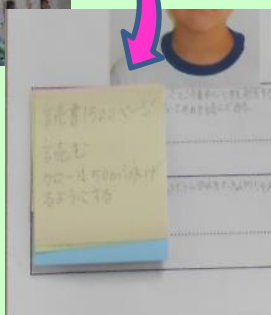


児童が自由にお知らせしたいことなどを付け足せるようになっています。

児童主体を促す掲示



学期の始めに書かせる
個人目標。
上の例は、行事やテスト前などに小目標を立て、付箋で更新します。



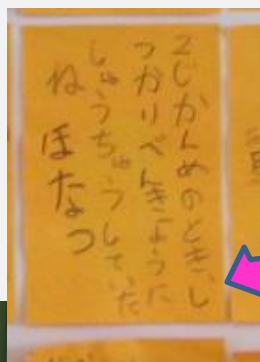
ポートフォリオ型の掲示

継続することで得られる
成長があります



掲示物も、児童の実態に合わせて学年で共通理解することが大切です

積み重ねていく掲示



毎日一人を“今日のヒーロー”として、帰りの会で全員から付箋を手渡されます。褒め言葉のシャワーにどの子も笑顔になります。(2年生の取組)



「〇ちゃん、△してくれてありがとう」など、友達から優しくされたことを葉っぱのカードに書いて木に貼り付けていきます。学級の成熟に合わせて、リンゴのカードに切り替えました。担任も参加し、子どものよいところを紹介します。(3年生の取組)

調査では、“頑張りの木” “花さき山”なども聞かれました



「今週頑張ったこと」を雲の付箋に書いて空をイメージした模造紙に貼ります。“成功したことでも、続けていることでもよい”という条件で、自分の頑張りを、友達の頑張りを見つけます。(6年生の取組)

A君は、今週もみんなに自分から挨拶していいなと思いました。
B子



「ハーモニー」の学級テーマに合わせて、一人一人の写真を音符に入れています

クラス目標の掲示



卒業

学級目標

← 1学期の掲示位置

卒業

学級目標

← 3学期の掲示位置

学期が進むにつれて、掲示物の位置や大きさを変えるのも、意識を高める上で有効です



先生は、子ども達のことを大事にしてくれているわ



ナビ14 学級活動(2)の授業(低学年編)

児童間のトラブルに関連して、課題に合った授業を行いたいと思います。
低学年ではどんな学活の授業が考えられますか？

低学年の調査で聞かれた“対応に困ったトラブル”

- 本当のことが言えない
- 事実を認めず嘘をつく
- 言い訳をする
- 悪口の言い合い

気持ちを抑えられなかったり、言葉で表現できなかったりするため、すぐ手が出たり泣いたりする

- 1対1のトラブルが多い。
- 一時的な感情のぶつかりあいが原因で、根は浅いが頻繁に起こる

- 自分のやったことを思い出せない。理由が自分でも分からない
- 体育での、勝ち負けが原因のけんか

自分の子どもの言い分を全て信じ切っている時の保護者対応



同級生に自分のやりたいことが理解されず「意地悪をされた」と怒る

教師が聞いている質問の意味が分からず、対応に時間がかかる



「自分の言動を思い出して、どうすればよかったのか考えられるとよい」、という課題設定で授業を提案します

< 低学年ってどんな時期？ >

- ☆好奇心が旺盛。体を動かすことが好きで、周囲を気にせず楽しんで表現しようとする子が多い。
- ☆幼児期の特徴を残しながら、知らないことや異質なものの抵抗感が少ないです。
- ☆大人が「いけない」と言うことはしてはいけないというように、大人の言うことを守ります。
- ☆自分の主張ができるようになります。自分中心の時期です。
- ★感情のコントロールを上手にできない子もいます。
- ★ひとつのことに長時間取り組むのは難しいです。
- ★友達に対して配慮をしたりするのは難しいです。

低学年の児童は、自分がされた嫌なことや、悔しかったことに目が向きがちです。

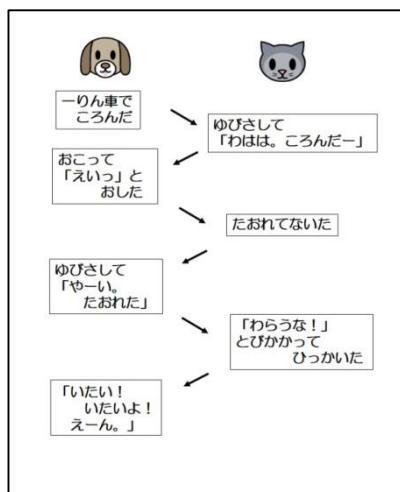
そこで、友達とけんかになったとき、自分はどうか振り返り、どうすればけんかにならなかったか考えさせる展開を提案します。低学年の段階では、起こってしまったことについて「やらなければよかった」「言わなければよかった」と考えがちなことが事前調査から明らかなので、「もし同じ事が起こったらどうすればよいか」を話し合うことで、“これから”に目を向けさせます。



時間	主な学習活動	教師の発言・支援(・)児童の反応(☆)
5	○課題の意識化	・ 最高の休み時間について意見を出し合い、向かっていくゴールを共有する。 ☆ みんなでサッカーしてる。 ☆ みんな笑ってる。「楽しいね」って言ってる。 <div>けんかになっても、最高の休み時間に変身させる方法を考えよう</div>
30	○話し合い活動 【集団思考】	・ 深呼吸して気持ちを落ち着けると、けんかにならない場合があることを知る。 ・ けんかに至った出来事を思い出し、自分の行動を振り返ることで、けんかを回避できるチャンスがたくさんあることを知る。 「ここがなければけんかにならなかったな、高に言えば仲直りできるな、というところを見つけましょう。」 場面をひとつひとつ後ろから取り上げ友達同士で考えさせる。その後、共有する。 ☆ 仲直りポイントはいっぱいある。 ☆ タマちゃんは「転んで大丈夫？」って言えばけんかにはならなかった。 ☆ 「笑わないで」って言う。 ☆ 泣かないで、先生に言う。 ・ 出されたセリフを友達と声に出して言うことで、日常化できるようにする。
10	○まとめ	・ 今後、けんかになってしまったときは、今日学習した3つの方法(深呼吸、仲直りポイントを探す、セリフを考える)を試して、最高の休み時間に変身させることを投げかける。 掲示等しておくことで意識化できる。

<問題の場面>

先生、わたしとポチくんとタマちゃんで一りん車にのってあそんでいたんです。
そしたら、ポチくんがころんじゃったんです。それを見てタマちゃんがゆびさしてわらったの。ポチくんはおこってタマちゃんをおしこくって、タマちゃんが一りん車ごとたおれちゃったんです。それで、ポチくんがゆびさしてわらったんで、タマちゃんがポチくんととびかかってひっかいて、ポチくんはないちゃって・・・



<授業者の感想>

けんかの時自分を振り返れる児童は少数で、ただ謝ればいいと思っている児童も多いです。この授業は、仲直りのチャンスはたくさんあること、そのチャンスをつかむためには深呼吸して落ち着いたりセリフを考えたりするとよいという、これまでの解決方法より一歩進んだ提案だと思います。また、低学年から言葉で伝える習慣を身につけさせることは大事だと思います。

細かい発問やワークシート、授業の様子は別添資料の1~4ページに掲載しました。

<コラム>

展開の中で出てくる「ここがよくなくてごめんね」、「〇〇しないでね」といった自分の気持ちを率直に正直に表現することをアサーションと言います。ムッとして何も言わなかったり、怒鳴って従わせる、といった表現とは異なります。相手が違う意見だったり、葛藤が生じることもあるかもしれませんが、その上で歩み寄ろうという気持ちが入っています。



児童間のトラブルに関連して、課題に合った授業を行いたいと思います。
中学年ではどんな学活の授業が考えられますか？

中学年の調査で聞かれた“対応に困ったトラブル”

・他学年や他クラスとのトラブルが多い

解決に時間がかかる内容が多い。友達に危害を加えるなど、けんかが激しい

・同じトラブルを繰り返す
・自分の非を認めないため、解決に時間がかかる。
・嘘をつく

・些細なことでも言いつけに来るが、本人に非があることも少なくなく、対応に困ることがある
・周りの子にちょっかいを出し言い合いになる



・「〇さんにやられた」とどんな小さな事でも報告してきて、自分たちで解決しようとしな

児童同士で注意する際の口調がきつい。注意された児童が泣いてしまう

・係や当番の仕事を上手にさぼる
・児童同士の言い分が異なり、事実確認が困難



「できることを考え、まずは自分たちで解決していけるとよい」、という課題設定で授業を提案します

< 中学年ってどんな時期？ >

☆複数の友達で、ルールのある遊びができるようになります。一緒に何かをすることを通して、集団に属している意識をもち始めます。その中でルールが生まれ、社会性なども学びます。発達心理学でギャングエイジとよばれる成長期です。

☆新しいものに進んで挑戦したいという気持ちが出てきます。自然科学や社会への興味ももち始める反面、理解できないと不安を抱くようになり、間違いや失敗を恐れるようになります。 ☆思考が現実的になってきます。生活基盤も広がります。

★大人の権威が絶対でなくなり、親や教師にも反抗的な態度を取る児童も出てきます。

★グループ単位で遊ぶことが増えるため、仲間外しなどが出てくる場合があります。

中学年の児童は、グループでの遊びを好むようになり、調査でも休み時間でのトラブルが最も多かったです。互いの距離が近いからこそ、軽い気持ちで傷つけてしまったり、傷ついたことを言えなかったりといったことが考えられます。そこで、言葉で気持ちを伝え合う一例を紹介します。その際、第三者を関わらせる方法を知らせることで、子ども同士で解決するという意識を育てることを提案します。中学年は、進んで実行する気持ちも持っているので、人の役に立つ喜びを体験させるチャンスでもあります。自分たちで解決する意識を育てることは、徐々に大人に相談しなくなってくる高学年以降の友達関係にも生きてくると考えます。



ねらい：自分のよさを、みんなのために役立てよう

学級活動(2)－ウ
望ましい人間関係の形成

時間	主な学習活動	教師の発言・支援(・)児童の反応(☆)
5	○課題の意識化	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケート（学級の実態調査）を使用し、よさを生かした解決方法への見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分の強みをみんなのために役立てることについて考えよう</div>
30	○話し合い活動【集団思考】	<ul style="list-style-type: none"> 問題文の子どもたちの言動で、どこがおかしいのか下線を引いて考えさせる。 ☆A男は入れないのに、B男は入れたところ。 ☆誰もA男に声をかけなかった ☆A男が入りたいのをみんな気づいていたのに、先生には言わなかった。 日常場面でも似たようなことがないか挙げさせ、理由を聞く。 入れない子が出たときに、どうすればよいのか、グループで考える。 また、「入れるのをやめよう」という子がいたらどうするかも考える。 ☆「A君もやる？やろうよ！」と誘う。みんなで言う。差別しない。 ☆A男君に、「入れて」って勇気出していってみるといいよって言う。 ☆入りたい人はいつでも自由に入れるルールにすれば、弱いからって外さないのでは。 これらの解決策に、自分の“強み”はどう生かせるかを考えさせる。 ☆A君を誘うという解決策は、はっきり意見が言える人が取り組みそう。
10	○まとめ【自己決定】	<ul style="list-style-type: none"> 事前にマークした「自分の強み」を見直し、問題場面ではどんなに行動につなげられるか、普段の生活ではどうか個人で考え、ワークシートに記入させる。 ☆ぼくはいいアイデアを思いつく方なので、困っている人と一緒に考えてあげたいです。 ☆私は、相手が嫌な思いをしないようにうまく言えるので、けんかに入らうまく解決してあげたいです。 実践を促す。

<問題の場面>

近ごろドッチボールがはやりはじめて、今日も12人が楽しそうに遊んでいます。鉄棒のところに、A君が仲間に入りたそうな様子でもじもじしているのが見えますが、みんな気づかないふりをしています。A君はドッチボールが苦手で、これまでもゲームを止めてしまうことがあったからです。そこへ、ドッチボールの上手なB君が「入れて！」と元気よく近づいてきました。みんなはじゃんけんをするためゲームをストップしました。

この様子を見ていたCさんが先生に報告しました。先生は、「なぜ、A君を入れないの？」と聞きました。みんなは、「A君が入りたいなんて知らなかった。」
「明日は一緒に遊びます。」と答えました。

☆あなたの“よさ”は何か？もう一度チェックしてみよう。

- ☐ やさしい方だ
- ☐ みんなに公平にできる方だ
- ☐ 自分のことだけでなく、友達のことも考えられる方だ
- ☐ 周りの人のようすに気づける方だ
- ☐ 言うべきことは、はっきり言える方だ
- ☐ 「いっしょに言おう」など、さそうのがとくいな方だ
- ☐ いいアイデアを思いつきやすい方だ
- ☐ 相手がいやな思いをしないようにうまく言える方だ
- ☐ やると決まったことに、きょうりよくできる方だ
- ☐ がんばっている人をおうえんできる方だ
- ☐ その他（ ）



その“よさ”は、あなたの“強み”です！

☆あなたの強みは、みんなのためにどんなふうに使えそうですか？
ふき出しに、書いてみましょう！

<授業者の感想>

問題が日々の学校生活にあり得る場面なので、自分を重ねて考えやすかったと思います。こうした内容を授業で扱うことが大切で、いじめの未然防止になると思います。また、“よさ（強み）”の選択肢の幅が広いのがとてもよいです。子どもたちは、“よさ”にはいろいろあることに気づけたようです。自己決定部分が吹き出しなのも書きやすく、明日からの行動に結びつけやすいと思います。

細かい発問やワークシート、授業の様子は別添資料の5～11ページに掲載しました。

<コラム>

自分の“強みや売り”を「リソース」といいます。「リソースは、「売り」でもあり「強み」でもあります。また、弱みに見えたことも、利用次第で強みや売りに変身します。無からは何も生まれません。あるもの（リソース）がとっても大事なのです。（黒沢幸子（2012）『ワークシートでブリーフセラピー』より引用）」みんなが自分の強みを自覚し、それをよりよい方向に使っていけたら、問題の解決に近づけそうです。



ナビ16 学級活動(2)の授業(高学年編)

児童間のトラブルに関連して、課題に合った授業を行いたいと思います。
高学年ではどんな学活の授業が考えられますか？

高学年の調査で聞かれた“対応に困ったトラブル”

とりあえず謝るなど、形式的なことはできるが、内面が伴っていない

- ・人気のある児童の取り扱い
- ・女子同士の人間関係によるトラブル

- ・担任が入って解決したトラブルでも後を引く
- ・長年の積み重ねがあるトラブル

- ・よくないと分かっているにもかかわらず、周囲を気にしてやめられない、注意できない
- ・自説や考えを曲げず、折り合いがつかない
- ・周囲の目を気にして謝るタイミングが遅くなる



- ・仲良しの友達を守るために、別の子がやったと噂を流した
- ・秘密をばらして相手を傷つける

- ・下級生に命令する
- ・担任以外の教員の授業だとふざける。

からかわれていることを心配したら「なかよくしているのでかまわないでほしい」と言われた。どういふことか分からない



「周りに流されないで、自分の考えで行動できるとよい」、という課題設定で授業を提案します

< 高学年ってどんな時期？ >

- ☆気持ちが安定し、豊かになります。相手の立場を考えられ、優しさや思いやりをもてるようになります。 ☆社会性が広がり、正義感が強くなります。
- ☆プライドが頑張りにつながる反面、いじめられていることを認めないといったマイナスに作用することもあるようです。
- ☆抽象的に考えられるようになり表現が豊かになります。
- ★立場を気にするようになります。非をすぐに認めなかったり、都合の悪いことは言わなかったりします。 ★自分を客観的に捉え、劣等感を持ちやすくなる時期です。
- ★小集団ができ、集団同士で反発したりします。また、集団内でランクの組み替えのような事が起こることで、自尊心が傷つけられることもあります。集団で一人をターゲットにするケースも増えるようです。

高学年になると、周囲からの評価が気になり、友達と違う意見を言ったり、行動したりすることにより、周囲から孤立してしまうのではないかと不安が強くなります。その結果、理不尽に思っていることでも、周囲から浮かないようにという思いが先立ち、仲がよい友達だとなおさら、自分の考えを表しにくくなるようです。

そこで、みんな同じ様な不安を持っていること、相手の立場も尊重しながら自分の考えを表す方法を理解させる一例を提案します。

ねらい：周囲の意見に流されないで、 自分の考えで行動しよう

時間	主な学習活動	教師の発言・支援(・)児童の反応(☆)
5	○課題の意識化	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の意見に流されて自分の意見が言えなかった経験を出し合う。 事前アンケート（学級の実態調査）を使用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">相手のことを考えながら、自分の考えで行動できる言い方を考えよう</div>
30	○話し合い活動 【集団思考】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの問題（下記の＜問題＞）を元に、なぜ3番を選べないのか考える。 ☆いい子ぶってると言われそう。 ☆仲間はずれにされるかも ☆みんなも不安なんだな。でも、自分の思いを変えて①や②を選ぶのはいやだな。 ・どうしたら自分の思いを伝えることができますか？近くの人と話し合ってみましょう。 ☆友達と一緒に言う。 ☆目で訴える。 ☆ジェスチャーで知らせる ・出た意見は板書する。 ☆方法はいろいろあるんだな ・自分にも友達にも3番を選ぶことがよいですね。 友達の立場も考えた、言い方を先生から提案します。“アイメッセージ”です。 私を主語にして、どう感じているかを話すやり方を“アイメッセージ”と言います。 あなたを主語にした言い方を“ユーメッセージ”と言います。 問題の答えを、アイメッセージで言い換えてみましょう。（共有する） ・“アイメッセージ”を使って、隣の人と問題の場面を話してみましょう。
10	○まとめ 【自己決定】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの2つの場面を“アイメッセージ”で返してみましょう。 ・日常のどんな場面で、“アイメッセージ”を使いたいですか？ ・1週間、“アイメッセージ”を意識して使ってみましょう。 “アイメッセージ”を使えたら、ワークシートに記録してみましょう。

＜問題の場面＞

下校の途中で、A君がみんなに「寄り道をして、沢ガニを捕まえよう」と言いました。みんなはすぐに賛成しましたが、本当は通学路以外の道を下校してはいけない決まりがあります。誰かが見えて、学校に通報されたら、先生に注意されます。

ぼくは・・・

- 1 しゅしゅ寄り道をする
- 2 用があると嘘を言って通学路で帰る
- 3 やめようと言う
- 4 その他



僕は、寄り道をしない方がいいと思うんだ。通学路以外の道を下校してはいけないことになっているから、いつもの道で帰る方がいいと思うんだけど、どう？

＜授業者の感想＞

問題として挙げられている事例が、高学年の児童がよく経験する場面なので、話し合いやすい内容だと思います。私は5年生の11月に授業を行いました。この時期に扱う道徳や国語の内容、人権月間等の取組と関連させて行えたので、より効果的だったと思います。アイメッセージを使うことは難しいですが、これを機会に意識づけることでよりよいコミュニケーションにつながると思います。

細かい発問やワークシート、授業の様子は別添資料の12～18ページに掲載しました。

＜コラム＞

「アイメッセージ」とは“私”を主語にして、自分自身がどう感じているかを語る方法です。これに対して「ユーメッセージ」とは“あなた”を言葉のどこかに入れて話す方法です。「うるさいな」というユーメッセージを「静かに聞いてくれると私は話しやすいです」というアイメッセージで話すと、相手に気持ちが伝わり、行動が変わるきっかけになります。



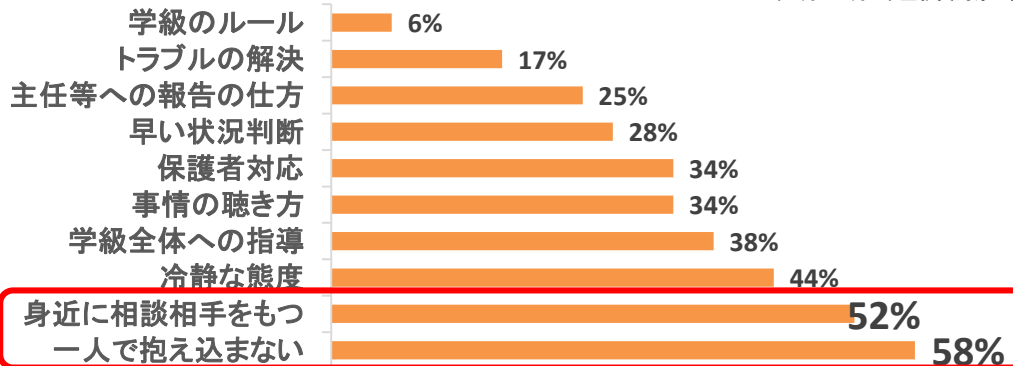
児童との関わりで、

もっといろいろな対応策を知りたいです

若手教員が身につけるとよい資質・技能

(複数回答可)

H26年5月～6月 中堅教員対象に実施



様々な立場の人と働いているよさを生かすといいですね。何かあってからではなく、日頃から職員同士で建設的な話ができるといいですね

もしも、クラスでいじめに近い出来事があった場合、どのように対応するか、ということ为例に考えてみましょう。近藤先生は、このような心理状況でしょうか…



近藤先生

明日には、
どうにかなっ
ているだろう

困ったな…
でも、誰にも言え
ないし、仕方ない

自分の責任だもの、
自分でどうにか
しなくちゃかな

近藤先生が、“様々な立場の先生がいる”というよさを生かし
て悩みを相談した場合、どんな道が開けるでしょう？



学年主任

私も気づかなくて
悪かったね。明日
からは休み時間の
様子を気をつけて
見てみるよ。



養護教諭

最近よく保健室にも
来ていたから、気にな
っていたのよ。
昨年度、こんなこと
があつてね…



生指導主任

生徒指導会議を臨時で
開いて、みんなで対応
を協議しましょう。
大丈夫ですよ。



管理職

よく話してくれました。
職員全員で対応しましょ
う。



同僚

つらかったでしょう。
私も前の学校で似たような事が
あって、そのときにね…

いじめに近い出来事だと気づいたときは、すぐに“報告・連絡・相談”を実行し、組織で対応することが重要です。一人で悩まず、いろいろな人に相談することで情報の共有ができ、結果的に問題の早期解決につながります。



少し人数を増やしてみんなで解決策を考えてみましょう (インシデント・プロセス法を使ってみましょう)

インシデントプロセス法は、質問をしながら問題の様子を明らかにし、対応策を考えていく方法です。インシデントは、“小さな出来事”という意味です。

若手教員の近藤先生が同僚に相談しようとしています。職員室での会話を聞いてみましょう。

先生方、すみません。
ちょっと聞いてもらえますか？



実は、放課後にちょっとしたけんかがあったんですが、会議の開始時間が迫っていたので、大して話も聞かずに帰ってしまったんです。

それがちょっと気になって。電話した方がいいのかな・・・？

誰と誰がけんかしたの？



言いに来たときはどんな様子だったんだい？



けんかの発端は何だと言っていたの？



けんちゃんの家は
ご両親とも帰りが
遅いのよね



質問する・答える、みんなで考える・・・

そうですね。明日の朝一番に、もう一度3人に話を聞いてみることにします。
話を聞いてくださってありがとうございました。気持ちが楽になりました。



このように、知りたい情報を質問することを通して、みんなで対応策を考えられるといいですね。OJTをもっと広げて、校内研修として事例研究を行う方法もあります。付箋や模造紙を使い、多様な意見から、解決策を導くことができます。

組織のよさを生かした児童とのよりよい関わりについて、学校全体で共通認識を図るのに校内研修が有効です。

そこで、本ハンドブック「応援ナビ！」をテキストにした、90分の「校内研修プログラム」をご紹介します。音声の入ったプレゼンテーションと、全てのセリフの入ったDVDを作成しましたので、わずかな準備で実施することが可能です。是非ご活用ください。

なお、「校内研修プログラム」のDVDは、下記にお問い合わせください。

問い合わせ先：群馬県総合教育センター いじめ・生徒指導相談係 0270-26-9217(直通)

研修メニュー

- ★ よりよい関わりの
ポイント理解
 - ・ロールプレイ
- ★ 組織的対応のポイント理解
 - ・ワークショップ
- ★ 振り返り・まとめ



このハンドブックに挙げた言葉の数々は、ベテランの先生方への調査等を基にできるだけ具体的な事例で示したものです。ですので、「提案」であって「お手本」ではありません。少しでも先生方のこれからの実践のお役に立てば幸いです。

＜主な参考文献＞

- ・文部科学省 『生徒指導提要』（2011）
- ・国立教育政策研究所 『生徒指導リーフ』シリーズ
- ・香川県教育センター 『教職員のためのサポートブック』（2011）『達人が伝授！』（2014）
- ・群馬県総合教育センター 『トラブル防止マニュアル』（2010）
- ・三隅 二不二 著 『リーダーシップの科学』講談社（1986）
- ・森田 洋司 滝 充 秦 政春 星野 周弘 若井 彌一 編著 『日本のいじめ』金子書房（1999）
- ・森田 洋司著 『いじめとは何か』中公新書（2010）
- ・河村 茂雄・品田 笑子・藤村 一夫 編著 『学級ソーシャルスキル』図書文化（2010）
- ・黒沢 幸子編著『ワークシートでブリーフセラピー』ほんの森出版（2012）
- ・河村 茂雄 著 『授業づくりのゼロ段階』図書文化（2013）
- ・『小学校版 いじめ克服実践事例集』小学館（2007）
- ・加藤 昌男 著 『ことばの伝達力 教室で役立つ30のヒント』NHK出版（2009）

児童との関わりに関する調査研究報告書
「応援ナビ！」
～児童とのよりよい関わりを目指して～

発行	平成26年3月
発行者	群馬県総合教育センター
調査担当者	平成26年度 長期研修員 西田 麻規 担当指導主事 小林 秀之（いじめ・生徒指導相談係）
問い合わせ先	いじめ・生徒指導相談係 Tel 0270-26-9217

